

全体授業研究会 振り返りより④ - 3年2組(9月20日) -

白島小学校 研修部

1 人から学ぶよさ

- 人との出会いを大切にする（人から学ぶ大切さ）が分かった。
- 社会科は、「人との出会い」があるからこそそのよさがあるという言葉が印象に残りました。また、資料集めの工夫、ゲストティーチャーの要請など、参考になりました。自分の反省としても、資料の精選や提示の仕方を考えていきたいと思います。
- 人との出会いを大切にする。人を通して学ぶこと。聞いたことをあためる時間があるといいこと。

2 明日の授業に生かせること

- 果物のかご盛りなどの具体物があって、子どもたちが飽きずに集中して学習に取り組めた。
- 西田さんのお話があり、よく工夫が分かったように思う。

徒然なるままに。。。？ お付き合いください！

— 地域を生かす授業づくりのために —

全体授業研となると、何かが起こる…これは、いったいどうしてなのでしょう。研究主任が厄年のせい、行いが悪いか。責任を感じてしまいます。

今回は、3学年の提案でした。皆さん、大変お疲れ様でした。3年の先生方の何度となく地域に出られる姿、果物を奮発される心意気に、授業づくりへの熱意を感じました。



今回の授業の特徴の一つは、地域教材を有効に生かしている点です。社会科では、地域教材を取り上げることが有効だと言われます。そこで、社会科授業で地域を生かすためのヒントを示してみたいと思います。

一つ目は、地域教材ならではの内容・学びを設定することです。地域教材を取り上げたものの、子どもに身近だというだけで、学習内容や学習展開は、一般的なものという教材ありきの授業が時々あります。それでは、地域教材を生かしたとは言いきれないのではないのでしょうか。その地域ならではの特色やよさに気付いたり、悩みや問題にかかわったりすることが必要です。これによって、地域の一員としての自覚や愛情がもて、地域社会に参画する力を育てることにつながると思います。

今回の授業で言えば、ニシダフルーツという小売店が客の思いに寄り添いながら、人とのつながりを大切にした営業をすることによって、商店が地域コミュニティの交流の場となり、地域をつなぐ役割をしていることに気付くようにすることが考えられます。

二つ目は、地域だからこそその学習展開です。直接、何度も取材ができる、人やものと直接出会える、具体的な資料を入手しやすいなど、地域だからこそそのメリットは、いくつも

あります。これを有効に生かした授業展開を考えることができるのではないのでしょうか。例えば、問い・テーマを立て、調査・聞き取りを重ねて追究する学習や総合的な学習などの他教科・領域とリンクさせた合科的な学習を展開してみてもいいのでしょうか。



三つ目は、人と出会い、つながりながら学ぶことです。社会での人の営みを生きる姿からとらえ、生き方や心情に共感する学習を展開することができるということです。今回の授業で言えば、西田さんの果物専門店ならではの品揃えや客の思いに沿いながら、人とのつながりを大切にする他の商店に負けない戦略(販売の工夫)を、西田さんの販売業に対するスタンス、プロとしての生き方としてとらえることができると考えられます。

社会は、人が創り、人の思いや意志が人を動かしています。いくら、米づくりに適する条件のある土地があっても、ここで他に負けない米づくりをしようとする人がいなければ、米は育ちません。こうして社会を創り、動かす人の姿から、社会を見つめることが必要だと思います。

ここで、地域人材を授業に取り入れる方法についてお話ししましょう。地域を生かす授業づくりは、私が新採で赴任した学校でたたき込まれた気がします。これは、そこで感じた私の我流ですので、参考までに。

まず、その方と仲良くなることです。取材で、話を伺った上で、ここが興味深いとか、こんなことを考えさせたいなど、授業の話やその他の合う話題の話を繰り返しながら、仲良くなります。迷惑にならない程度に、授業のために厚かましくお願いしている中で、考えていないような資料や活動が舞い込んでくることもありました。

次に、ゲストに話してもらう内容は、こちらでじっくりと精査する必要があります。授業でのゲストの話は、資料です。だから、情報の取捨選択をするのは、当然のことなのです。「～について、〇分で話してください。」と具体的にお願したり、事前に話を聞いた上で、こちらが原稿を書き、読んでもらうという方法もありだと思います。聞き取りを重ねていけば、こちらの意図と思いが伝わり、ぶれない話をしてくださるのではないかと思います。

授業で、一方的にゲストに話していただくだけでは、もったいないです。子どもは、きっと、ゲストの心情に共感し、いただいたメッセージに答えたいとか、もっと聞きたいとか思うはずです。そこで、インタビュー形式で子どもと直接やりとりできるようにしたり、感じたことを子どもからメッセージとして送り、さらに、ゲストに話していただくなど、子どもとゲストが行きつ戻りつする活動を取り入れてはどうでしょうか。



ゲストは、私たちにはない、専門性と熱意をもつ「ホンモノ」です。そこには、子どもの感動と学びがあります。ぜひ、子どもにすばらしい出会いをさせてください。

西田さんの人柄、言葉一つ一つに、人の温かさを感じました。人を通して、社会を学ぶ、「人間社会科」をこれからも展開していきたいと再認識させられる授業でした。